

花と迎える年末年始

保健学部 看護学科 楠田 美奈
華道家元池坊 中央委員 木村 尚未

【活動概要】

杏林大学とアトレヴィ三鷹との連携事業として、年末年始のお花の作品展示を実施した。本活動は参加する学生の『コミュニケーションスキル』を育むことと、『モチベーションの向上』を目的としている。

【活動紹介】

2022年10月から、打ち合わせを重ね、作品テーマを“希望”にし、『新型コロナウイルス感染症の影響やロシア・ウクライナ問題など、暗いニュースがたくさんあったが展示を通して、新年の期待や希望を表現し、展示を見てくださった皆様へ安らぎや明るい気持ちを感じてもらえるよう、まっすぐに成長していく竹や明るい色の花材にて、未来への希望を表現したい。』と作成意図を伝え、アトレヴィ三鷹側からも承諾をいただき、作品制作に臨んだ。12月から本格的に準備を開始し、作品の重要な部分を占める、『竹』を採取では、松田理事長先生をはじめ、造園業者の皆様のご協力をいただいた。採取後の竹の加工(油脂塗布で色持ちをさせ、デザインを実現するための、竹を切る・割るなど)を行なった。28日からの展示は、学生が花を生けている姿を見ていただく『いけばなパフォーマンス』が3年ぶりに開催できた。28日と31日は本活動の分担者でもある木村も指導・展示に加わり、学生は作品制作に臨んだ。

12月29日以降、ほぼ毎日のメンテナンス(花の入れ替え、水の有無の確認など)を本活動にかかわるメンバー全員でシフトを組んで実施した。



図1 金槌と鉋で、竹を割って準備



図2 いけばなパフォーマンス



図3 完成作品(年末)



図4 完成作品(年始)



図5 完成作品(改札フロア)

【活動総括】

プレゼンテーションやポスターの原案などの相談・連絡等、アトレヴィ三鷹の担当者とのやり取りから、当初目的としていた『コミュニケーションスキル』を育むことにつながったと考えられる。

また、『モチベーションの向上』は6名で作品制作・展示・メンテナンスをする予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、準備・展示は3名となり、メンテナンスは2名と責任者・分担者でフォローすることになり、学生たちが「少ない人数でも、今まで先輩たちが展示を継続している活動だから、頑張っていこう」と展示に対する責任感が向上したことも、本活動を通じての副産物になったと言える。